

新しい都市圏活断層図について New Active Fault Map in Urban Area

地理調査部 星野 実・飯田 誠・木村幸一・高橋広典・北原敏夫
Geographic Department Minoru HOSHINO, Makoto IIDA, Koichi KIMURA,
Hironori TAKAHASHI and Toshio KITAHARA

要 旨

平成7（1995）年の兵庫県南部地震を契機に都市圏域を対象に調査を開始した都市圏活断層図は、平成16年度までに124面を作成した。平成17年度からは、作成対象地域を都市域周辺として主要な活断層帯の調査を開始し、平成18年11月1日に「阿寺断層とその周辺」4面を公表した（図-1）。この新しい都市圏活断層図の内容について紹介するとともに、これまでの調査の概要、図の利活用状況とその分析、販売状況とその背景などについてとりまとめた。

1. はじめに

平成7年兵庫県南部地震は、6400人を超える死者、建造物の倒壊やライフラインの寸断など甚大な被害をもたらした。

この地震以降、耐震補強、活断層など地震に関する情報の公開、地震が起きた場合の揺れの大きさや被害予測などの公表等を国、地方公共団体等が実施してきている。

都市圏活断層図は、兵庫県南部地震を契機に平成7（1995）年から平成16年度までに都市地域がほぼ整備された。

平成17年度からは都市域周辺の主要な活断層を対象に新しい都市圏活断層図の調査を開始した。この図は、これまでの都市圏活断層図の表示内容に一部追加して作成している。

本稿では、新しい都市圏活断層図の内容、平成7年～平成16年の調査概要、利活用の状況及び販売状況等について報告する。

整備状況（図-1）については、国土地理院ホームページ（<http://www1.gsi.go.jp/geowww/bousai/published.html>）でも見ることができる。

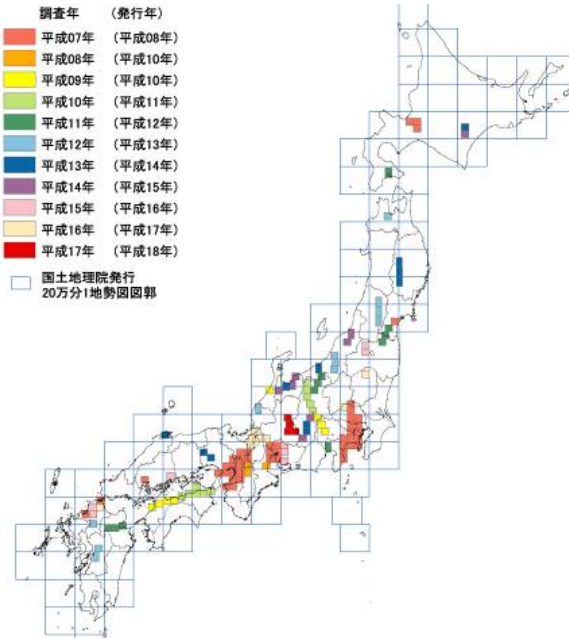


図-1 都市圏活断層図の整備状況



図-2 「阿寺断層とその周辺」(坂下)の表紙

2. 新しい都市圏活断層図の内容

新しい都市圏活断層図は、従来の図に比べていくつかの点で変更を行っている。

- 1) 作成範囲は、都市域周辺（都市域に被害を及ぼす可能性のある主要な活断層帯）の活断層帯全体が入るようにした。
- 2) 活断層露頭等の表示項目を追加した。
- 3) 活断層帯毎の変位地形、図面毎の解説及び調査地域周辺の地形等を取りまとめた解説書を作成することとした。
- 4) 表紙に調査地域の地形が概観できるように鳥瞰図を入れた（図－2）。
- 5) 箱に入れた提供を行う。

2. 1 調査地域

新しい都市圏活断層図として作成した「阿寺断層とその周辺」の調査位置図は、図－3のとおりである。阿寺断層帯は、中部日本の中央部に位置する重要な断層である。飛騨高原南部（阿寺山地）と美濃高原を地形的に鮮明に分けて（図－4）、北西－南東方向に延びている。主な運動様式は左横ずれであり、一般に北東側が隆起する上下方向の動きも伴っている。一方、阿寺断層帯の周辺にはこれに直交する北東－南西方向に延びる活断層が分布する。主な運動様式は右横ずれである。阿寺断層帯とその周辺に分布する活断層を含めた全体の活断層群は阿寺断層系とよばれる（岡田ほか、2006a）。

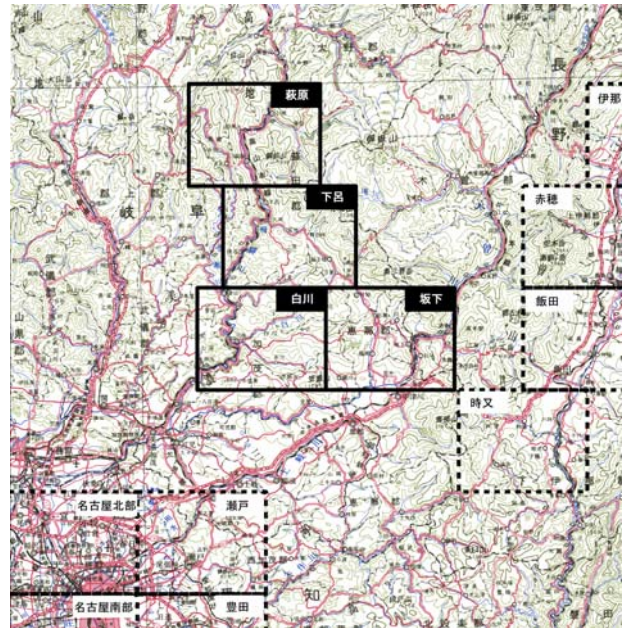
阿寺断層帯の調査は、平成17年度に行い、「阿寺断層とその周辺」として「萩原」「下呂」「坂下」「白川」4図面で阿寺断層帯をカバーしている（図－3）。

「阿寺断層とその周辺」の調査範囲は図－5の黒線枠の範囲である（基図は20万分1地勢図）。図の左上に青色で地図名を入れてある。図には赤で活断層、黒で推定活断層の位置を表示してある。

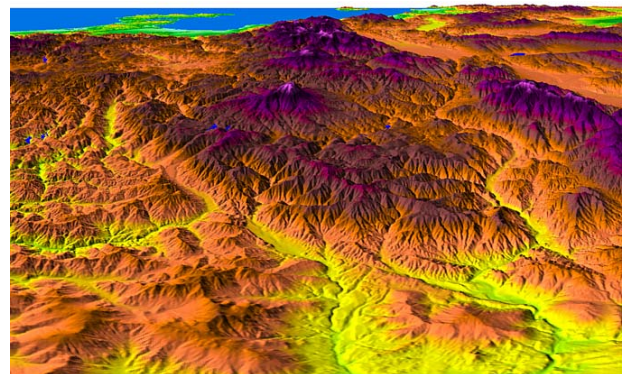
2. 2 調査体制

大学等の活断層研究者から構成されている都市圏活断層図作成調査検討委員会を平成17年度から主要活断層調査検討委員会（表－1）とし、調査全般の検討を行い、活断層素図の作成は調査検討委員会の下にある作成委員会を実施している。活断層素図の作成は、図面毎に4～5名の委員によるクロスチェックを経て作成している。

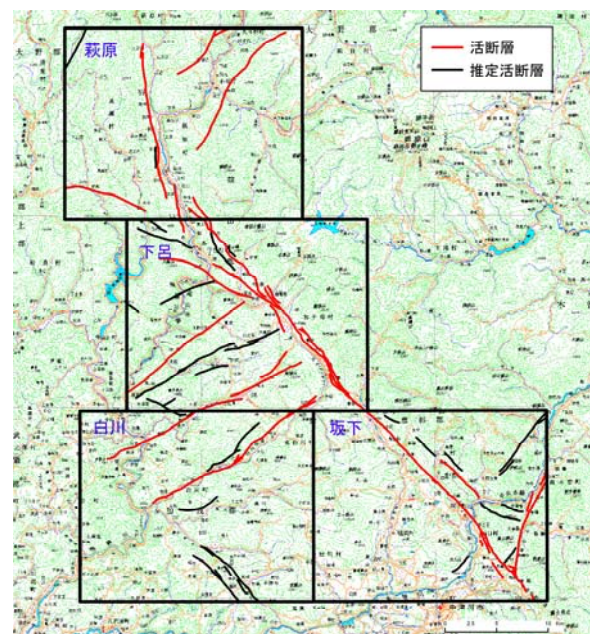
また、活断層に関連する地形（段丘、扇状地、地すべり等）及び関係資料の調査は国土地理院が実施している。



図－3 調査位置図



図－4 阿寺断層周辺の地形（岡田ほか、2006a）



図－5 「阿寺断層とその周辺」概要図

表一 主要活断層調査検討委員（○は委員長）

氏名	所属
池田 安隆	東京大学大学院理学系研究科助教授
今泉 俊文	東北大学大学院理学研究科教授
○岡田 篤正	立命館大学歴史都市防災研究センター教授
熊原 康博	広島大学総合博物館助手
後藤 秀昭	福島大学人間発達文化学類助教授
澤 祥	鶴岡工業高等専門学校教授
鈴木 康弘	名古屋大学大学院環境学研究科教授
杉戸 信彦	名古屋大学大学院環境学研究科 附属地震火山・防災研究センター研究員
千田 昇	大分大学教育福祉科学部付属小学校長
堤 浩之	京都大学大学院理学研究科助教授
東郷 正美	法政大学社会学部教授
中田 高	広島工業大学環境学部環境情報学科教授
平川 一臣	北海道大学大学院教授
宮内 崇裕	千葉大学大学院自然科学研究科教授
廣内 大助	愛知工業大学工学研究科 地域防災研究センター研究員
八木 浩司	山形大学地域教育文化学部教授

2. 3 作成の流れ

活断層の調査は、空中写真による変動地形調査を行い、複数の委員によるクロスチェックを経て活断層素図を作成する。また、別に作成する地形分類素図（段丘、扇状地、地すべり地形等）は空中写真判読により作成し、活断層素図とを合わせて、都市圏活断層図原稿図を作成する。この原稿図を数値化し、出力図による点検を経て印刷用ファイル作成後、印刷が行われる（作成の流れは図-6のとおりである）。

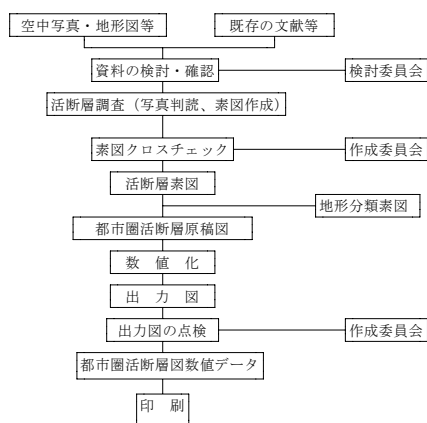


図-6 作成の流れ

2. 4 表示内容

2万5千分1地形図を基図とし、その上に活断層及び関連する地形区分等を図-7の記号により表示している。

新しい都市圏活断層図に追加した内容として、

1) 推定活断層（地表）、2) 地形区分の細分化、3) 活断層露頭、4) 溶岩流堆積面等がある。

地形区分は、活断層の評価に関連する段丘地形・沖積低地・地すべり地形などの第四紀後期（数十万年前から現在）に形成された主な地形を表示している。

写真-1は、阿寺断層の変位地形が見られる坂下付近（図-8の中央部）を南東方向から撮影したものである。

図-8は、都市圏活断層図「坂下」図幅、また、図-9に「下呂」図幅の一部を掲載した。



写真-1 阿寺断層帯中・南部付近の地形（1978年11月岡田篤正撮影）

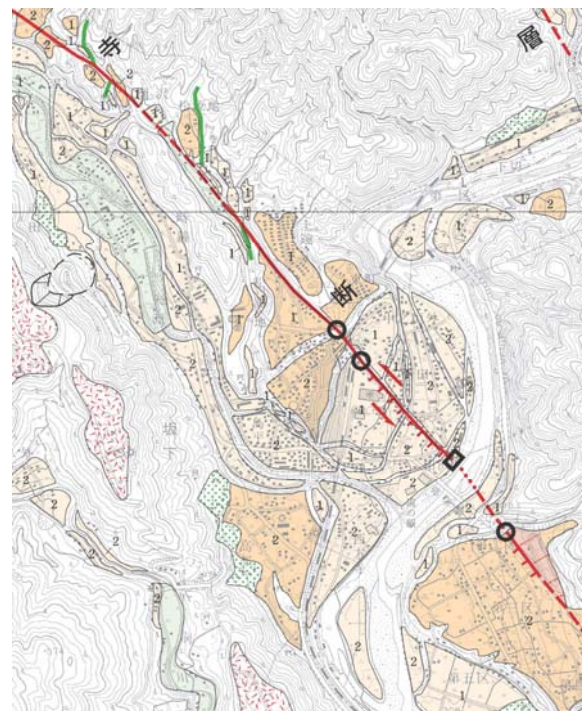


図-8 「坂下」図幅の中央部（中津川市坂下）

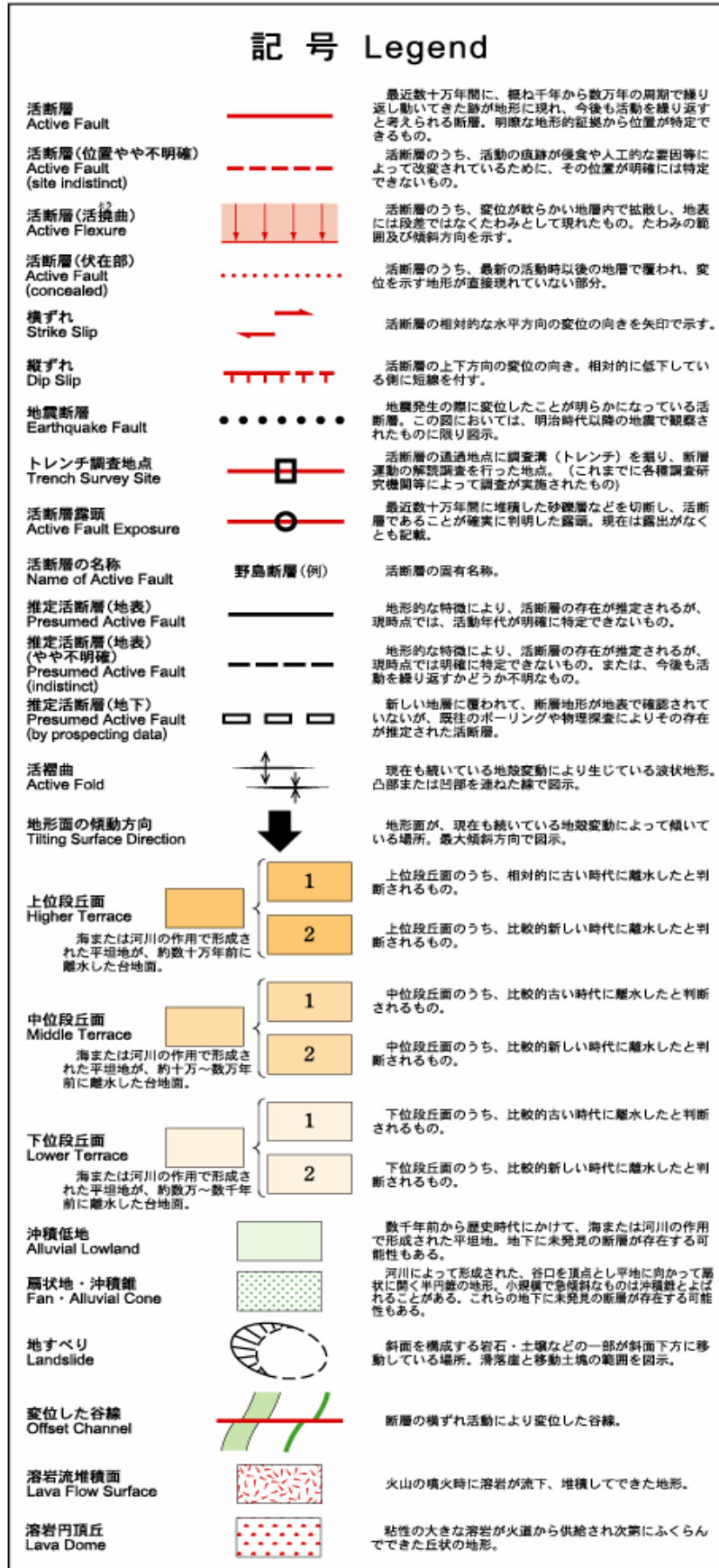


図-7 新しい都市圏活断層図の主な凡例

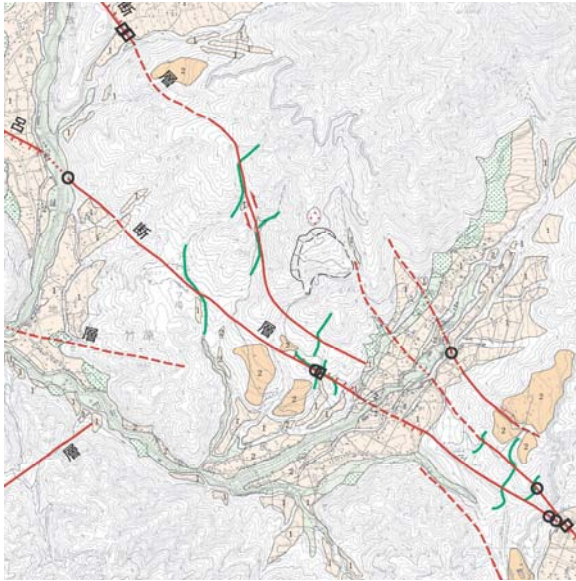


図-9 「下呂」図幅の中央部（下呂市御厩野）

2. 5 解説書の作成

解説書の原稿は、各活断層図の調査を担当する委員（主に筆頭調査者）が作成している。内容は、1）阿寺断層とその周辺の地形の特徴、2）阿寺断層帯の主な変位地形と活断層の特徴、3）各図面毎の活断層や地形について写真及び付図を使いA4判21ページで詳細に記述している。

2. 6 図のレイアウト

表紙に鳥瞰図を入れて調査地域の地形が概観できるようにした（図-2）。また、隣接する図が分かるようにインデックスを入れた。

なお、活断層図及び解説書を箱に入れた提供も行っている。箱には「坂下」図面の一部をレイアウトした（図-10）。

3. 平成17年度までに整備した都市圏活断層図について

平成17年度までに整備した都市圏活断層図の面数は128面である。図面ごとの調査年、主な活断層名（地図上に表示した活断層名）、調査者名を表-2（巻末）にとりまとめた。

平成7年～平成17年の都市圏活断層調査に携わって頂いた委員は41人である。

年度別調査図面数は、平成7年が最も多く45面、平成9年～平成16年ではそれぞれ8面～11面の調査を行った。

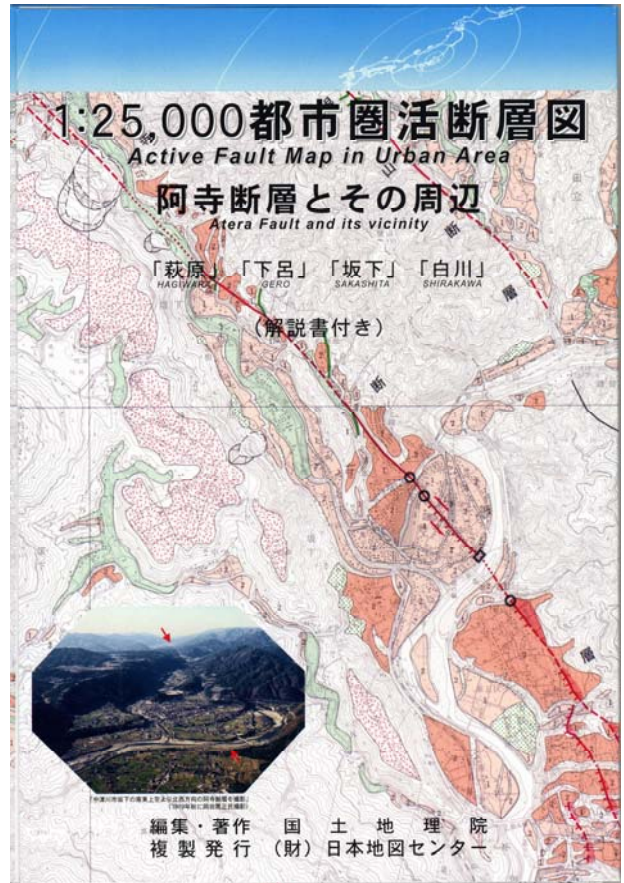


図-10 箱の表紙

4. 利活用について

4. 1 問い合わせの分析

平成16年度～平成17年度の都市圏活断層図に関する電話等による国土地理院への問い合わせについて分析を行った。

4. 1. 1 月別問い合わせ件数

(1) 平成16年度

平成16年度は126件で、単純に平均すると月平均10件の問い合わせがあった。平成16年度は、災害の多い年で10月23日には平成16年新潟県中越地震が発生した。図-11に示す月別問い合わせ件数を見ると、興味深い傾向が浮かび上がってくる。この地震後の11月の件数をピークにその前後の件数に大きな変化が見られる。4月～9月までの問い合わせ件数は25件（月平均約4件）、10月～3月は101件（月平均約17件）と4倍に増加している。

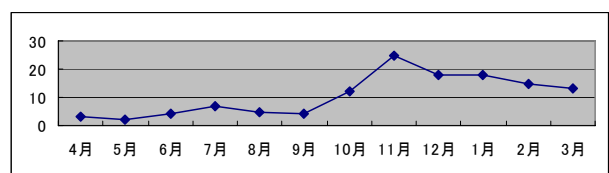


図-11 平成16年度 月別問い合わせ

(2) 平成 17 年度

平成 17 年度は 99 件で、月平均 8 件の問い合わせがあった。4 月～9 月までの問い合わせ件数は 19 件（月平均約 3 件）、10 月～3 月は 80 件（月平均約 13 件）と平成 16 年度と同じように 4 倍に増加している。3 月 20 日に平成 17 年福岡県西方沖を震源とする地震の影響もあってか 4 月に 9 件の問い合わせがあった。図-12 を見ると 11 月と 2 月に問い合わせ件数のピークがある。平成 16 年度のパターンと共通するところは、年度の前半は問い合わせが少ないが、11 月から問い合わせが多くなる傾向がある。問い合わせの内容を見ると、活断層があるかどうかという問い合わせが多い。また、報道機関、特にテレビの特集番組で地震に関するものが放映されると問い合わせが多くなる。平成 7 年兵庫県南部地震発生日の 1 月 17 日に放映された特集番組を見たという人からの問い合わせが 2 件あった。また、テレビで都市圏活断層図があることを知ったという企業からの問い合わせもあった。防災等の普及啓発には報道機関が重要な役割を担っていることがわかる。

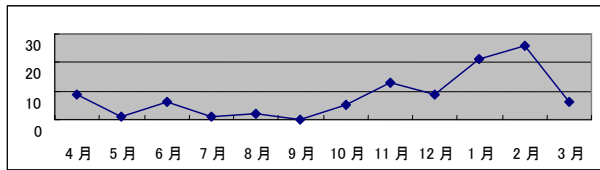


図-12 平成 17 年度 月別問い合わせ

4. 1. 2 機関別問い合わせ

(1) 平成 16 年度

図-13 からは、個人からの問い合わせが 43 件（約 34%）で全体の 1/3 を占めている。行政機関 23 件（約 18%）と企業 21 件（約 17%）を合わせて 1/3、その他が 1/3 である。このことから、個人からの問い合わせが多いことが分かる。

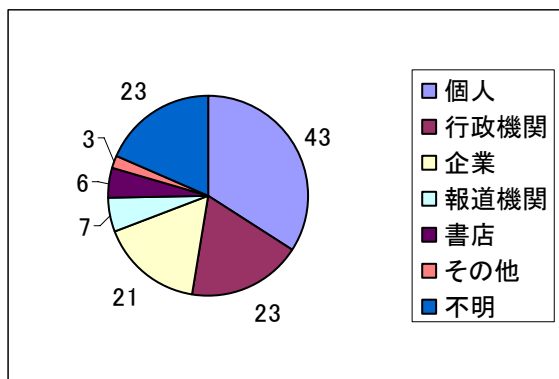


図-13 平成 16 年度 問い合わせ先

自分の住んでいるところに活断層があるのかどうか知りたいという要求の結果だと思われる。また、活断層という言葉が広く一般に理解されたことだと思われる。

(2) 平成 17 年度

図-14 からは、約 5 割が個人からの問い合わせである。これは、活断層という言葉が広く理解されるようになったことと、住宅や土地の購入の際の資料として都市圏活断層図が利用されている結果と思われる。問い合わせの内容を見てみると、住宅の購入や転居先の情報として活断層図が公表されているか、活断層があるかというような問い合わせが多い。

平成 16 年度～平成 17 年度で個人からの問い合わせの割合が 3 割から 5 割と増加している。都市圏活断層図は、2 万 5 千分 1 地形図を背景にして活断層の位置や形状を詳細に表示していることから自分の住んでいる地域に活断層があるかということがわかるため、個人の利用が進んでいると思われる。

そのほか、企業からの問い合わせも多くなっている。特に不動産関連の企業からの問い合わせが多い。

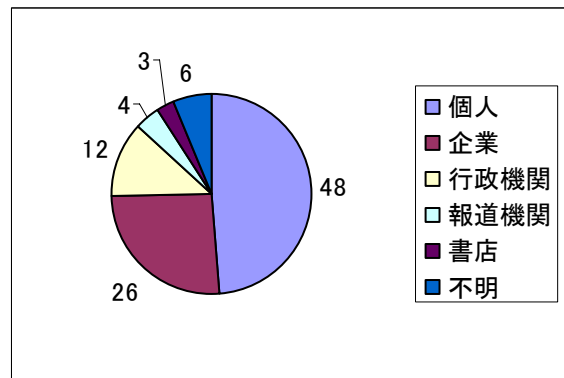


図-14 平成 17 年度 問い合わせ先

4. 1. 3 都道府県別問い合わせ

問い合わせのあった地区を都道府県別に多い順に表-3, 4にまとめた。都市圏活断層図が公表されている都市部からの問い合わせが多いことがわかる。図が公表されているか、活断層があるかという問い合わせである。

表－3 平成16年度 地区別問い合わせ

都道府県別 問い合わせ	件数
東京都	13
大阪府	12
愛知県	11
福岡県	11
静岡県	8
神奈川県	6
福島県	6
兵庫県	6
広島県	6
京都府	5
新潟県	4
三重県	3
千葉県	3
その他	19
全般的な質問	24
総数	137 [※]

※ 複数の問い合わせがあるため4.1.1の件数と異なる。

表－4 平成17年度 地区別問い合わせ

都道府県別 問い合わせ	件数
大阪府	18
東京都	9
新潟県	6
福岡県	5
神奈川県	3
広島県	3
埼玉県	3
岐阜県	3
群馬県	3
その他	15
不明	32
総数	100 [※]

※ 複数の問い合わせがあるため4.1.1の件数と異なる。

4.2 販売状況の推移

都市圏活断層図の販売枚数の推移（平成8年度～平成18年8月末）は図-15のとおりである。全体の販売枚数（平成8年度～平成18年8月）は、約25万枚で、上位10位の販売枚数の合計は約7万枚

平均7千枚が販売されている。

図面毎の販売枚数は、販売を開始した年度の販売枚数が多くなっている。特に平成8年度に販売された45面についてみると、平成8年度に販売された枚数は、146,910枚（平均3,264枚）で、販売枚数が特に多くなっている（図-15）。

初年度を除く次年度以降での販売枚数が特に多い図面は、「仙台」（平成15年度）954枚、「福岡」（平成17年度）3,429枚、「長岡」（平成16年度）690枚、「小千谷」（平成16年度）615枚、「十日町」（平成16年度）515枚である。平成17年度「福岡」の販売が増加したのは、平成17年（2005年）福岡県西方沖地震により被害が発生した影響によるものである。

また、平成16年度「長岡」は、平成16年の中越地震に伴う調査用資料等として活用されたと考えられる。さらに平成17年度「小千谷」は、中越地震による地震断層等を表示した図面の修正版を販売したため増加したものである。

5. おわりに

平成16年度からは新しい都市圏活断層図の検討を開始して、平成17年度には「阿寺断層とその周辺」の調査を実施した。

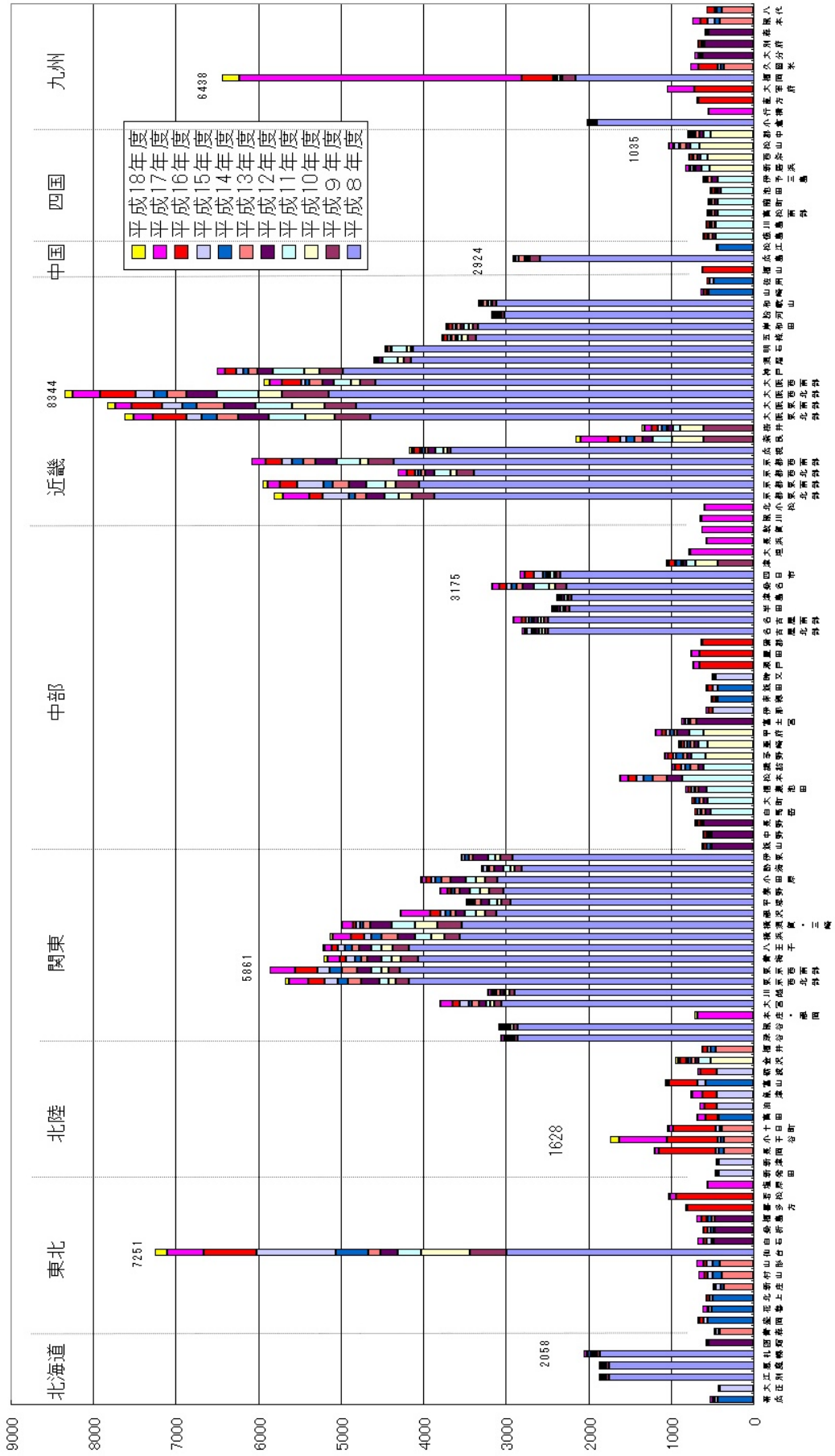
本稿は、新しくなった都市圏活断層図「阿寺断層とその周辺」を中心に報告し、これまで行ってきた都市圏活断層調査の概要、利活用及び販売状況について紹介した。

都市圏活断層調査は、都市域の整備がほぼ終了し今後都市域周辺の活断層帯を対象に整備を進めていくことになる。

今後、都市圏活断層図が防災対策や地震防災マップなどのハザードマップ作成等に広く活用されることを期待する。

謝 辞

これまで都市圏活断層図作成にご尽力頂いた委員の先生及び作成に関係した多くの皆さんにこの場をお借りして深謝致します。



图一15 販売状況（平成18年8月末現在）

参考文献

- 池田安隆, 熊原康博, 廣内大助, 中田高, 岡田篤正(2006): 1:25,000 都市圏活断層図 阿寺断層とその周辺「萩原」, 国土地理院技術資料D・1-No. 458.
- 岡田篤正, 池田安隆, 中田高 (2006a): 1:25,000 都市圏活断層図 阿寺断層とその周辺「萩原」「下呂」「坂下」「白川」解説書. 国土地理院技術資料D・1-No. 458.
- 岡田篤正, 中田高, 後藤秀昭, 廣内大助, 澤祥 (2006b): 1:25,000 都市圏活断層図 阿寺断層とその周辺「坂下」, 国土地理院技術資料D・1-No. 458.
- 岡田篤正, 澤祥, 後藤秀昭, 熊原康博, 越後智雄, 池田安隆 (2006c): 1:25,000 都市圏活断層図 阿寺断層とその周辺「白川」, 国土地理院技術資料D・1-No. 458.
- 活断層研究会編 (1991): 新編 日本の活断層一分布図と資料一, 東京大学出版会, 437.
- 関口辰夫, 中島秀敏, 津沢正晴, 吉武勝宏, 政春尋志, 田口益雄, 小田切聡子 (1996): 都市圏活断層図の作成について, 国土地理院時報, 第86集, 69-81.
- 中田高, 岡田篤正, 池田安隆, 廣内大助, 越後智雄 (2006): 1:25,000 都市圏活断層図 阿寺断層とその周辺「下呂」, 国土地理院技術資料D・1-No. 458.
- 藤巻治雄 (2001): 都市圏活断層図における活断層の認定, 「地理調査部技術ノート」第18号, 95-106.
- 国土地理院ホームページ, <http://www1.gsi.go.jp/geowww/bousai/published.html> (accessed 18 Dec, 2006)

表-2 都市圏活断層図作成一覧表（平成7年～平成17年度調査）

	図名	調査年度	主な活断層	筆頭調査者	調査者
1	帯 広	平成13年度	土幌川断層 旭断層 茂発谷断層 途別川断層	東郷正美	東郷正美 平川一臣 越後智雄 石山達也
2	大 正	平成14年度	茂発谷断層 以平断層 途別川断層	平川一臣	平川一臣 東郷正美 千田昇 越後智雄
3	江 別	平成7年度	栗沢断層	池田安隆	池田安隆 佐藤比呂志 平川一臣 伏島祐一郎 今泉俊文
4	恵 庭	平成7年度		池田安隆	池田安隆 佐藤比呂志 平川一臣 伏島祐一郎 今泉俊文
5	札 幌	平成7年度		池田安隆	池田安隆 佐藤比呂志 平川一臣 伏島祐一郎 今泉俊文
6	函 館	平成11年度	函館平野西縁断層帯	平川一臣	平川一臣 今泉俊文 池田安隆 東郷正美 宇根 寛
7	青 森	平成12年度	青森湾西断層 入内断層 浪岡撓 曲 大平断層 野木和断層 黒石 断層 山越断層 飯詰断層	宮内崇裕	宮内崇裕 佐藤比呂志 八木浩司 越後智雄 佐藤尚登
8	盛 岡	平成13年度	北上低地西縁断層帯 雫石盆地西縁断層帯	八木浩司	八木浩司 宮内崇裕 今泉俊文 渡辺満久 後藤秀昭
9	花 巻	平成13年度	北上低地西縁断層帯	宮内崇裕	宮内崇裕 八木浩司 今泉俊文 渡辺満久 後藤秀昭
10	北 上	平成13年度	北上低地西縁断層帯	今泉俊文	今泉俊文 八木浩司 宮内崇裕 渡辺満久 後藤秀昭
11	新 庄	平成12年度	鮭川断層 舟形断層 沖の原断層 長者原断層 尾花沢一楯岡断層 駒籠一横山断層	澤 祥	澤 祥 宮内崇裕 佐藤比呂志 八木浩司 松多信尚 越路智雄 丹羽俊二
12	村 山	平成12年度	富並断層 高森山断層 湯野沢断 層 尾花沢一楯岡断層 駒籠一横 山断層 寒河江一山辺断層 山形 盆地西縁断層帯	今泉俊文	今泉俊文 澤 祥 佐藤比呂志 松多信尚 越路智雄 丹羽俊二
13	山 形	平成12年度	半郷断層 上山断層 山形盆地西 縁断層帯 村木沢断層 寒河江一 山辺断層	八木浩司	八木浩司 今泉俊文 佐藤比呂志 後藤秀昭 越後智雄 丹羽俊二
14	仙 台	平成7年度	長町一利府線 大年寺山断層	今泉俊文	今泉俊文 佐藤比呂志 澤祥 宮内崇裕 八木浩司
15	白 石	平成11年度	村田断層 遠刈田断層 白石断層	今泉俊文	今泉俊文 中田 高 渡辺満久 澤 祥 松多信尚 宇根 寛 丹羽俊二
16	桑 折	平成11年度	越河断層 藤田東断層 藤田西断層 桑折断層	澤 祥	澤祥 今泉俊文 渡辺満久 中田 高 松多信尚 宇根 寛 丹羽俊二
17	福 島	平成11年度	台山断層 土湯断層 桑折断層 飯坂断層	渡辺満久	渡辺満久 澤 祥 今泉俊文 中田 高 松多信尚 宇根 寛 丹羽俊二
18	喜多方	平成15年度	会津盆地西縁断層帯 加納断層 千咲原断層	今泉俊文	今泉俊文 後藤秀昭 平川一臣 宮内崇 裕
19	若 松	平成15年度	会津盆地西縁断層帯 会津盆地東縁断層帯	宮内崇裕	宮内崇裕 今泉俊文 越後智雄 後藤秀 昭 澤 祥 八木浩司
20	新発田	平成14年度	加治川断層 五十公野断層 長峰原断層 月岡断層	渡辺満久	渡辺満久 宮内崇裕 八木浩司 藤本大 介
21	新 津	平成14年度	月岡断層 庵地断層 村松断層 五泉断層	宮内崇裕	宮内崇裕 後藤秀昭 澤祥 渡辺満久

	図名	調査年度	主な活断層	筆頭調査者	調査者
22	長岡	平成12年度	鳥越断層 上富岡断層 親沢断層 悠久山断層 片貝断層	堤 浩之	堤 浩之 東郷正美 渡辺満久 金 幸隆 佐藤尚登
23	小千谷	平成12(17) 年度	片貝断層 山本山断層 小平尾断層 六日町盆地西縁断層 十日町 盆地東縁断層 十日町盆地西縁断層	渡辺満久	渡辺満久 堤 浩之 鈴木康弘 金 幸隆 佐藤尚登
24	十日町	平成12年度	十日町盆地西縁断層 十日町盆地 東縁断層 細尾一如来寺断層 六日町盆地西縁断層	鈴木康弘	鈴木康弘 東郷正美 渡辺満久 金 幸隆 佐藤尚登
25	高田	平成13年度	高田平野東縁断層 高田平野西縁断層	渡辺満久	渡辺満久 宮内崇裕 堤 浩之 金 幸隆 藤本大介
26	泊	平成14年度	魚津断層	今泉俊文	今泉俊文 東郷正美 堤 浩之 金田平太郎 中村洋介 廣内大助
27	魚津	平成14年度	魚津断層	東郷正美	東郷正美 今泉俊文 堤 浩之 金田平太郎 中村洋介 廣内大助
28	富山	平成13年度	呉羽山断層帯	堤 浩之	堤 浩之 東郷正美 渡辺満久 中村洋介
29	砺波	平成14年度	高清水断層 法林寺断層	堤 浩之	堤 浩之 東郷正美 今泉俊文 中村洋介 金田平太郎 廣内大助
30	金沢	平成9年度	森本断層 富樫断層	東郷正美	東郷正美 池田安隆 今泉俊文 澤 祥
31	福井	平成12年度	更毛断層 福井平野東縁断層帯	東郷正美	東郷正美 岡田篤正 堤 浩之 石山達也 小野塚良三
32	塩原	平成16年度	関谷断層帯	今泉俊文	越後智雄 後藤秀昭 澤 祥 宮内崇裕 八木浩司
33	本庄・藤岡	平成16年度	深谷断層 櫛挽断層 神川断層 平井断層	後藤秀昭	中田 高 今泉俊文 池田安隆 越後智雄 澤 祥
34	深谷	平成7年度	深谷断層	澤 祥	澤 祥 渡辺満久 八木浩司
35	熊谷	平成7年度	深谷断層 江南断層	澤 祥	澤 祥 渡辺満久 八木浩司
36	大宮	平成7年度	綾瀬川断層	澤 祥	澤 祥 渡辺満久 八木浩司
37	川越	平成7年度		関口辰夫	関口辰夫 津沢正晴 中島秀敏 渡辺満久 今泉俊文
38	青梅	平成7年度	立川断層	関口辰夫	関口辰夫 津沢正晴 中島秀敏 渡辺満久 今泉俊文
39	八王子	平成7年度		東郷正美	東郷正美 宮内崇裕
40	東京西北部	平成7年度		澤 祥	澤 祥 渡辺満久 八木浩司
41	東京西南部	平成7年度		澤 祥	澤 祥 渡辺満久 八木浩司
42	横浜	平成7年度		渡辺満久	渡辺満久 宮内崇裕 八木浩司 今泉俊文
43	横須賀・三崎	平成7年度	北武断層 武山断層 南下浦断層 引橋断層 関東大地震1923	渡辺満久	渡辺満久 宮内崇裕 八木浩司 今泉俊文
44	藤沢	平成7年度	伊勢原断層	東郷正美	東郷正美 宮内崇裕 佐藤比呂志
45	平塚	平成7年度		東郷正美	東郷正美 宮内崇裕 佐藤比呂志
46	秦野	平成7年度	国府津・松田断層 秦野断層 渋沢断層	宮内崇裕	宮内崇裕 池田安隆 今泉俊文 佐藤比呂志 東郷正美

	図名	調査年度	主な活断層	筆頭調査者	調査者
47	小田原	平成7年度	国府津・松田断層 和留沢断層	宮内崇裕	宮内崇裕 池田安隆 今泉俊文 佐藤比呂志 東郷正美
48	熱海	平成7年度	北伊豆地震1930 丹那断層	八木浩司	八木浩司 今泉俊文 澤 祥 東郷正美 池田安隆
49	伊東	平成7年度	遠笠山断層	八木浩司	八木浩司 今泉俊文 澤 祥 東郷正美 池田安隆
50	飯山	平成11年度	北竜湖断層 長野盆地西縁断層 重地原断層	宮内崇裕	宮内崇裕 堤 浩之 東郷正美 金 幸隆 宇根 寛 小田切聡子
51	中野	平成11年度	長野盆地西縁断層	堤 浩之	堤 浩之 東郷正美 宮内崇裕 宇根 寛 小田切聡子
52	長野	平成11年度	長野盆地西縁断層 松代地震断層1965~66	東郷正美	東郷正美 堤 浩之 宮内崇裕 岡田篤 正 大石 超 宇根 寛 小田切聡子
53	白馬岳	平成10年度	神城断層	澤 祥	澤 祥 東郷正美 今泉俊文 池田安隆 松多信尚
54	大町	平成10年度	神城断層 松本盆地東縁断層	東郷正美	東郷正美 池田安隆 今泉俊文 澤 祥 松多信尚
55	信濃池田	平成10年度	松本盆地東縁断層 信濃坂断層	東郷正美	東郷正美 池田安隆 今泉俊文 澤 祥 松多信尚
56	松本	平成10年度	松本盆地東縁断層 牛伏寺断層	松多信尚	松多信尚 池田安隆 東郷正美 今泉俊文 澤 祥
57	諏訪	平成10年度	霧ヶ峰断層群 諏訪湖南岸断層群 諏訪湖北岸断層群 赤木山断層	今泉俊文	今泉俊文 東郷正美 澤 祥 池田安隆 松多信尚
58	茅野	平成9年度	青柳断層 下葛木断層 若宮断層 大沢断層	澤 祥	澤 祥 東郷正美 今泉俊文 池田安隆
59	韮崎	平成9年度	下田井断層 大坊断層	田力正好	田力正好 池田安隆 澤 祥 今泉俊文 東郷正美
60	甲府	平成9年度	曾根丘陵断層群 市之瀬断層群	今泉俊文	今泉俊文 澤 祥 東郷正美 池田安隆
61	富士宮	平成11年度	安居山断層 大宮断層 入山瀬断層 芝川断層	中田 高	中田 高 東郷正美 池田安隆 今泉俊文 宇根 寛
62	伊那	平成14年度	木曾山脈山麓断層 小黒川断層	池田安隆	池田安隆 澤 祥 中田 高 松多信尚
63	赤穂	平成13年度	木曾山脈山麓断層 田切断層	池田安隆	池田安隆 鈴木康弘 澤 祥 松多信尚
64	飯田	平成13年度	木曾山脈山麓断層 田切断層 飯田一松川断層	鈴木康弘	鈴木康弘 池田安隆 澤 祥 田力正好 廣内大助
65	時又	平成14年度	川路・竜丘断層 駒場断層 三州街道断層	岡田篤正	岡田篤正 鈴木康弘 中田 高
66	瀬戸	平成15年度	猿投山北断層 猿投一境川断層	鈴木康弘	鈴木康弘 岡田篤正 熊原康博 東郷正美
67	豊田	平成15年度	猿投一境川断層	東郷正美	東郷正美 岡田篤正 澤 祥 鈴木康弘
68	蒲郡	平成15年度	横須賀断層 深溝断層 三河地震(1945)	岡田篤正	岡田篤正 鈴木康弘 堤 浩之 東郷正美
69	名古屋北部	平成7年度		鈴木康弘	鈴木康弘 渡辺満久 岡田篤正
70	名古屋南部	平成7年度	猿投一境川断層系 大高一府断層 加木屋断層	鈴木康弘	鈴木康弘 渡辺満久 岡田篤正
71	半田	平成7年度	大高一府断層 高浜撓曲 東大高撓曲	鈴木康弘	鈴木康弘 渡辺満久 岡田篤正

	図名	調査年度	主な活断層	筆頭調査者	調査者
72	大垣	平成16年度	池田山断層 宮代断層 関ヶ原断層 大清水断層	鈴木康弘	池田安隆 後藤秀昭 東郷正美 宮内崇裕
73	津島	平成7年度	養老断層系	鈴木康弘	鈴木康弘 千田昇 渡辺満久
74	桑名	平成7年度	養老断層系 桑名断層系 嘉例川 撓曲 治田断層 宇賀断層 田光 断層 北勢一多度撓曲 石博北山 断層	鈴木康弘	鈴木康弘 千田昇 渡辺満久 岡田篤正
75	四日市	平成7年度	四日市撓曲	鈴木康弘	鈴木康弘 千田昇 渡辺満久
76	津	平成8年度	庄田断層 安濃撓曲	鈴木康弘	鈴木康弘 八木浩司 岡田篤正 中田高 池田安隆
77	長浜	平成16年度	鍛冶屋断層 醍醐断層	東郷正美	岡田篤正 澤祥 鈴木康弘 堤浩之 平川一臣
78	敦賀	平成16年度	奥川並断層 柳ヶ瀬断層 柳ヶ瀬 山断層 集福寺断層 敦賀断層 野坂断層 駄口断層 路原断層 マキノ断層	岡田篤正	今泉俊文 熊原康博 千田昇 東郷正美 中田高
79	熊川	平成16年度	琵琶湖西岸断層帯 花折断層 熊川断層 マキノ断層 三方断層	堤浩之	熊原康博 千田昇 東郷正美 平川一臣 八木浩司
80	北小松	平成16年度	琵琶湖西岸断層帯 花折断層 堅田断層	宮内崇裕	岡田篤正 堤浩之 東郷正美 平川一臣
81	京都東 北部	平成7年度	花折断層 堅田断層 比叡断層	岡田篤正	岡田篤正 東郷正美 中田高 植村善博 渡辺満久
82	京都東 南部	平成7年度	膳所断層 桃山断層	岡田篤正	岡田篤正 東郷正美 中田高 植村善博 渡辺満久
83	奈良	平成8年度	奈良坂撓曲	八木浩司	八木浩司 相馬秀廣 岡田篤正 中田高 池田安隆
84	桜井	平成8年度	天理撓曲	相馬秀廣	相馬秀廣 八木浩司 岡田篤正 中田高 池田安隆
85	京都西 北部	平成7年度	神吉一越畑断層 亀岡断層 猪倉断層	岡田篤正	岡田篤正 東郷正美 中田高 植村善博 渡辺満久 鬼木史子
86	京都西 南部	平成7年度	亀岡断層 檜原断層 光明寺断層 真上断層 安威断層 天王山断層	岡田篤正	岡田篤正 植村善博 東郷正美 中田高 渡辺満久
87	大阪東 北部	平成7年度	交野断層 田口断層 生駒断層 枚方撓曲	中田高	中田高 岡田篤正 鈴木康弘 渡辺満久 池田安隆
88	大阪東 南部	平成7年度	生駒断層 誉田断層 羽曳野撓曲	中田高	中田高 岡田篤正 鈴木康弘 渡辺満久 池田安隆
89	五條	平成7年度	五条谷断層 金剛断層	岡田篤正	岡田篤正 千田昇 中田高
90	広根	平成7年度	十万辻断層	中田高	中田高 岡田篤正 鈴木康弘 渡辺満久 池田安隆
91	大阪西 北部	平成7年度	伊丹断層 坊島断層 五月丘断層 甲陽断層	中田高	中田高 岡田篤正 鈴木康弘 渡辺満久 池田安隆
92	大阪西 南部	平成7年度	上町断層 桜川撓曲 住之江撓曲	中田高	中田高 岡田篤正 鈴木康弘 渡辺満久 池田安隆
93	岸和田	平成7年度	坂本断層	岡田篤正	岡田篤正 千田昇 中田高
94	粉河	平成7年度	五条谷断層 根来断層 桜池断層	岡田篤正	岡田篤正 千田昇 中田高
95	神戸	平成7年度	柏尾谷断層 諏訪山断層	渡辺満久	渡辺満久 鈴木康弘 中田高

	図名	調査年度	主な活断層	筆頭調査者	調査者
96	須磨	平成7年度	兵庫県南部地震1995 楠本断層 須磨断層	渡辺満久	渡辺満久 鈴木康弘 中田 高
97	和歌山	平成7年度	根来断層 磯ノ浦断層	岡田篤正	岡田篤正 千田 昇 中田 高
98	明石	平成7年度	野島断層 楠本断層 東浦断層	渡辺満久	渡辺満久 鈴木康弘 中田 高
99	山崎	平成13年度	山崎断層帯 安富断層 暮坂峠断層	千田 昇	千田 昇 中田 高 岡田篤正 金田平太郎
100	佐用	平成13年度	山崎断層帯 大原断層 土万断層	岡田篤正	岡田篤正 千田 昇 中田 高 石山達也
101	松江	平成13年度	鹿島断層	中田 高	中田 高 岡田篤正 千田 昇 今泉俊文 金田平太郎 佐藤高行
102	福山	平成15年度	長者ヶ原断層	中田 高	中田 高 今泉俊文 熊原康博 堤 浩之
103	広島	平成7年度	己斐断層	中田 高	中田 高 岡田篤正 鈴木康弘 渡辺満久 東郷正美
104	徳島	平成10年度	鳴戸断層 鳴戸南断層	岡田篤正	岡田篤正 堤 浩之 中田 高 後藤秀昭 丹羽俊二 小田切聡子
105	川島	平成10年度	父尾断層 切幡南断層 板野断層 神田断層 引野断層 上浦断層 西月ノ宮断層	岡田篤正	岡田篤正 堤 浩之 中田 高 後藤秀昭 丹羽俊二 小田切聡子
106	高松南部	平成10年度	長尾断層 鮎滝断層 大川撓曲	中田 高	中田 高 後藤秀昭 岡田篤正 堤 浩之 丹羽俊二 小田切聡子
107	脇町	平成10年度	父尾断層 土柱断層 井口断層 三野断層	中田 高	中田 高 後藤秀昭 岡田篤正 堤 浩之 丹羽俊二 小田切聡子
108	池田	平成10年度	三野断層 池田断層 箸蔵断層	後藤秀昭	後藤秀昭 中田 高 岡田篤正 堤 浩之 丹羽俊二 小田切聡子
109	伊予三島	平成10年度	池田断層 佐野断層 寒川断層	堤 浩之	堤 浩之 岡田篤正 中田 高 後藤秀昭 丹羽俊二 小田切聡子
110	新居浜	平成9年度	石鎚断層 寒川断層 畑野断層 岡村断層	堤 浩之	堤 浩之 岡田篤正 中田 高 後藤秀昭 丹羽俊二
111	西条	平成9年度	岡村断層 小松断層 川上断層	中田 高	中田 高 後藤秀昭 岡田篤正 堤 浩之 丹羽俊二
112	松山	平成9年度	川上断層 北方断層 伊予断層 重信断層	後藤秀昭	後藤秀昭 丹羽俊二 中田 高 岡田篤正 堤 浩之
113	郡中	平成9年度	伊予断層 米湊断層	岡田篤正	岡田篤正 堤 浩之 中田 高 後藤秀昭 丹羽俊二
114	小倉	平成7年度	小倉東断層	千田 昇	千田 昇 渡辺満久 岡田篤正
115	行橋	平成16年度	小倉東断層 福智山断層	千田 昇	池田安隆 岡田篤正 鈴木康弘 中田 高
116	直方	平成15年度	西山断層	千田 昇	千田 昇 池田安隆 堤 浩之 中田 高
117	太宰府	平成15年度	西山断層 宇美断層	池田安隆	池田安隆 千田 昇 越後智雄 中田 高
118	福岡	平成7年度	警固断層	千田 昇	千田 昇 岡田篤正 中田 高 渡辺満久 鬼木史子
119	久留米	平成12年度	水縄断層帯	千田 昇	千田 昇 岡田篤正 中田 高 池田安隆 高澤信司

	図名	調査年度	主な活断層	筆頭調査者	調査者
120	大分	平成11年度	鹿鳴越断層 軒ノ井断層 府内断層 別府湾中央断層 杵築沖断層群 大在沖断層群 日出沖断層群	岡田篤正	岡田篤正 池田安隆 中田 高 千田 昇 宇根 寛
121	別府	平成11年度	朝見川断層 亀川断層 堀田断層 由布院断層 飛岳断層群 野稻岳断層群 崩平山断層群	千田 昇	千田 昇 池田安隆 中田 高 岡田篤正 宇根 寛
122	森	平成11年度	猪牟田断層 万年山断層群 黒岳断層 崩平山断層群	田力正好	田力正好 池田安隆 中田 高 岡田篤正 千田 昇 宇根 寛
123	熊本	平成12年度	布田川断層	池田安隆	池田安隆 千田昇 中田 高 金田平太郎 田力正好 高澤信司
124	八代	平成12年度	日奈久断層帯 緑川断層 鶴木場断層 朴の木断層	中田 高	中田 高 岡田篤正 千田 昇 金田平太郎 田力正好 高澤信司
125	萩原	平成17年度	萩原西断層 西上田断層 小坂断層 洞断層 大原断層 小川断層	池田安隆	池田安隆 熊原康博 廣内大助 中田 高 岡田篤正
126	下呂	平成17年度	阿寺断層帯 下呂断層 湯ヶ峰断層 宮地断層 久野川断層 火打断層 佐見断層 白川断層	中田 高	中田 高 岡田篤正 池田安隆 廣内大助 越後智雄
127	白川	平成17年度	佐見断層 白川断層 赤河断層	岡田篤正	岡田篤正 澤 祥 後藤秀昭 熊原康博 越後智雄 池田安隆
128	坂下	平成17年度	阿寺断層 城ヶ根山断層、 馬籠峠断層 上松断層	岡田篤正	岡田篤正 中田 高 後藤秀昭 廣内大助 澤 祥